

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク種付け密度試験（本島地区）

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

培養種（培養した盤状体）の使用は、県内全域に普及しつつあるが、培養種を使用すると種が付きすぎるため生産するモズクが細い、熟しない等の問題が聞かれる。そこで、昨年度に引き続き培養種の使用量を変えた種付け試験を実施した。

2. 材料及び方法

試験は、伊平屋村漁協モズク生産部会と合同で行った。第1回試験は、平成21年12月25日モズク培養種の使用量を変えた4つの試験区（80/t、160/t、240/t、380/t）を設定し開始した（図1、表1）。試験前に使用する培養種のサンプリングを3回行い、乾燥重量を水産海洋研究センターで測定した。種付け期間中3回、各試験区の確認板の盤状体（倍率200倍）の数・大きさを測定した。

各試験区の水槽には水温・照度計を設置し、水温と照度を計測した。平成22年1月10日、各試験区で種付けした網各20枚を育苗に移し、島尻地先で本張りを行った。

第2回試験は、平成22年1月19日から第1回目と同様な方法で実施した。1月28日各試験区の網各20枚を育苗に移し、島尻地先で本張りを行った。

3. 結果

第1回試験と第2回試験に使用した培養種の乾燥重量は0.190mg/ml と0.204mg/ml で大きな差はなかった。また、第1回と第2回の各試験区の水温に大きな差はなかった（図4、図7）。

確認板に付着した盤状体の数は、第1回試験の380/t 区が終盤減少したが、全体的には使

用した種の量が多い試験区ほど多い傾向にあった（図2、図5）。また、盤状体の大きさは盤状体の数が少ないほど平均的に大きくなる傾向があった（図3、図6）。

第1回及び第2回各試験区とも本張り後、藻体はほとんど生長せず切れてしまった。6月8日に確認したところ、養殖網は真っ白い状態であった。伊平屋村漁協の今期モズク生産は、1月からの天候不順等により全体的に不作であった。

4. 考察

確認板に付着した盤状体の数は、試験を実施3年度とも使用した種の量が多い試験区ほど多い傾向にあった。盤状体の大きさは盤状体の数が少ないほど平均的に大きくなる傾向があった。このことから、使用する培養種の量によって、モズク網に付く種のある程度調整することができると思われる。

種付け密度と収穫量の関係については、今年度は収穫に至らず明確でないが、平成19年度第1回試験と平成20年度第2回試験は密度が低いほど収穫量は多い傾向にあった。

種付け密度と藻体の太さの関係については、今年度は収穫に至らず明確でないが、平成20年度第2回試験は密度が低いほど太い傾向にあった。

種付け密度と収穫量の関係や藻体の太さの関係については、時化等の影響もあり試験毎に結果のばらつきがあり明確ではなかった。



図1 種付け密度試験

表1 種付け密度試験試験区設定

試験区	使用水槽	水槽水深	使用網枚数	使用種量	肥料使用量	確認板枚数
1	縦207cm×横 121cm	50cm	20枚	8 $\frac{1}{2}$ g / t	500ml	4枚
2	縦207cm×横 121cm	50cm	20枚	16 $\frac{1}{2}$ g / t	500ml	4枚
3	縦207cm×横 121cm	50cm	20枚	24 $\frac{1}{2}$ g / t	500ml	4枚
4	縦207cm×横 121cm	50cm	20枚	38 $\frac{1}{2}$ g / t	500ml	4枚

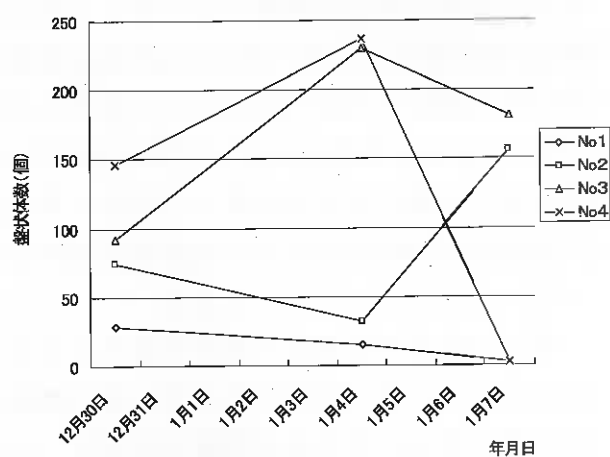


図2 第1回種付け密度試験盤状体数

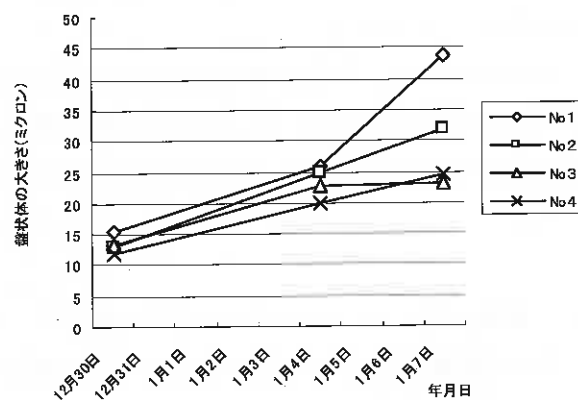
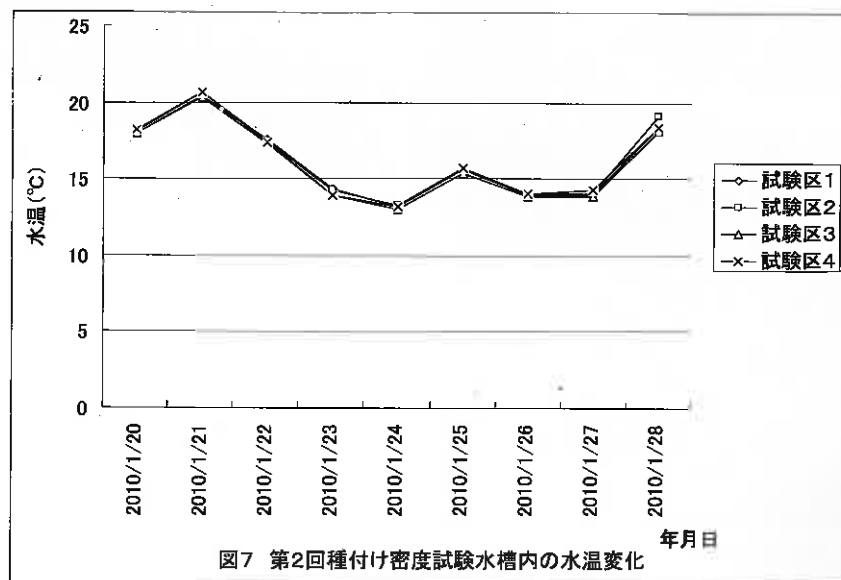
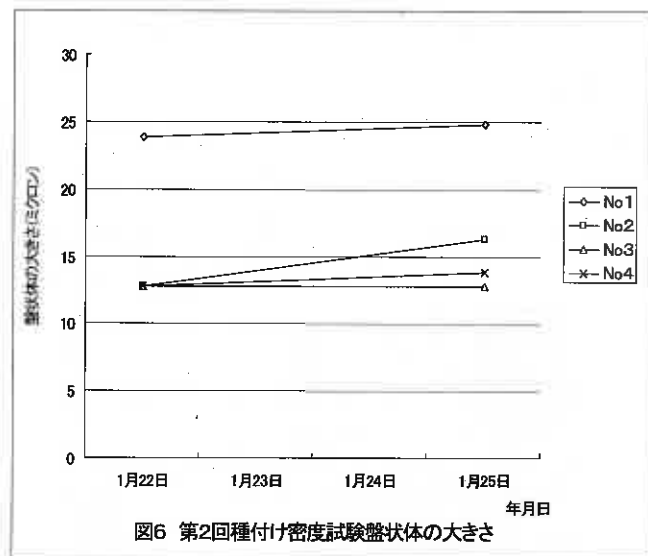
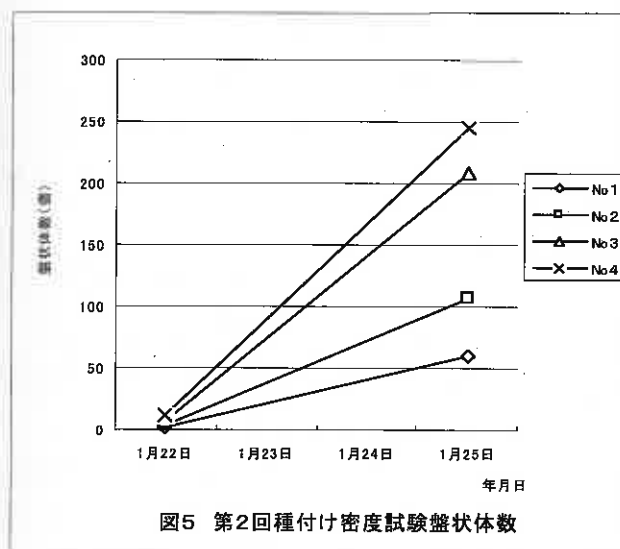
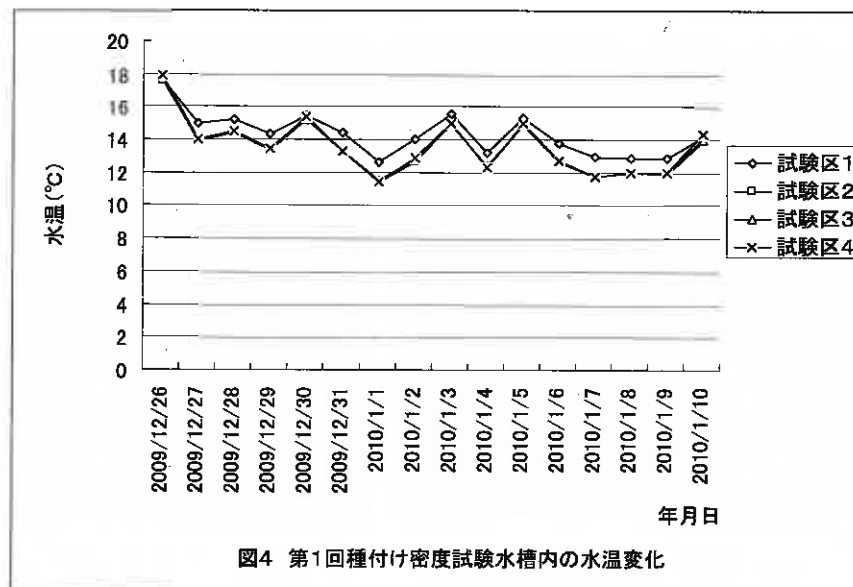


図3 第1回種付け密度試験盤状体の大きさ





①種付け密度試験の本張り状況



②種付け密度試験の本張り状況